

22 医療社会福祉部



医療社会福祉部には、社会福祉士や精神保健福祉士の資格をもつソーシャルワーカーが現在9名在籍し、患者さんが抱える療養中の様々な課題への支援を行なっている。また、がん相談支援センターや認知症疾患医療センターにソーシャルワーカー各1名を配置し、専門の相談支援を実施している。

支援内容は、転院や在宅サービス調整等の退院支援、訪問診療や緩和ケア病院等の受診・受療援助のほか、経済的問題、育児・介護や家族関係に関わる支援、就学・就労に関する社会復帰支援など多岐にわたる。

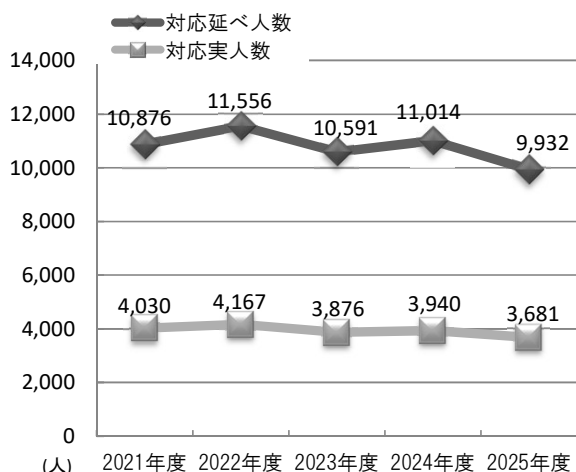
対応実人数・延べ人数は、若干減少しているものの、この数年で大きな変化は見られない(22-1)。支援内容の構成比率は、例年とほぼ変わらず退院支援の割合が最も大きい(22-2)。診療科別では、脳神経外科の対応延べ人数が全診療科の3割強を占め、支援の多くは転院調整である(22-3)。

2025年度は、これまでの入退院支援加算2にかわり9月より入退院支援加算1の算定を開始した。各病棟に退院支援看護師もしくはソーシャルワーカーを専従専任配置し、入院後3日以内のスクリーニングと患者さん・家族との面談、一週間以内に多職種でカンファレンスを実施することにより、生活課題を把握し退院後の生活を見据えた支援を早期に開始することで、患者さんが安心して療養を継続できるより確実な体制が整えられつつある。さらに、当該加算により地域関係機関との対面での情報共有の機会が増加したことで、スムーズな連携及び地域連携体制の構築につながっている。

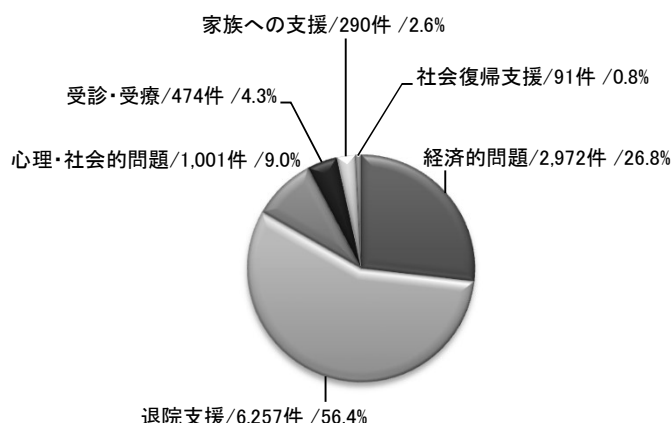
また、近年様々な医療チームに参加してきたが、新たに臨床倫理コンサルテーションチームにも参加し、患者さんの社会的背景等を含めた視点からも検討が可能となるよう努めている。

今後も、ソーシャルワーカーの支援の質の向上を図り、他職種・他機関と協働しながら、相談支援・退院支援体制を強化することで、患者さんの療養生活の質を高められるよう努めていきたい。

22-1 対応人数の年度別推移



22-2 2025年度支援内容の構成比率(合計11,085件／対応述べ件数)



22-3 2025年度 診療科別・対応延べ人数

区	分	件数	構成比率(%)	区	分	件数	構成比率(%)
循環器内科		788	7.9	心臓血管外科		198	2.0
血液内科		994	10.0	呼吸器外科		472	4.8
アレルギー・リウマチ内科		53	0.5	整形外科		36	0.4
糖尿病・内分泌・代謝内科		11	0.1	形成外科		8	0.08
肝・胆・膵内科		55	0.6	脳神経外科		3,084	31.1
消化管内科		250	2.5	皮膚科		25	0.25
呼吸器内科		185	1.9	泌尿器科		71	0.7
脳神経内科		194	2.0	産科婦人科		370	3.7
腎・透析内科		112	1.1	眼科		50	0.5
小児科 / NICU		310	3.1	耳鼻咽喉科・頭頸部外科		438	4.4
肝・胆・膵外科		6	0.1	放射線科		1	0.01
小児外科		13	0.1	歯科口腔外科		83	0.8
上部消化管外科		7	0.07	麻酔科		22	0.2
下部消化管外科		838	8.4	救命救急センター		843	8.5
炎症性腸疾患外科		257	2.6	精神科神経科		43	0.4
乳腺・内分泌外科		61	0.6	その他		54	0.5
合 計				9,932	100.0		